

国内の主なゲノムコホートとの連携準備状況

資料2-2

※五十音順

名称	連携の状況
大規模分子疫学コホート研究 (国立がん研究センター)	具体的な話し合いを開始 ゲノムコホート構築に必要な作業の分担や質問項目の可能な限りの 共通化を協議中 東北メディカル・メガバンクでの講演を依頼中
ながはま0次予防コホート事業 (京都大学)	東北メディカル・メガバンクで既に講演を頂き討論を実施した 質問項目の可能な限りの共通化を協議中
日本多施設共同コホート研究 (J-MICC研究)	準備中
バイオバンク・ジャパン	東北メディカル・メガバンクで既に講演を頂いた 具体的な話し合いを開始
久山町コホート (九州大学)	準備中
山形分子疫学コホート研究 (山形大学)	東北メディカル・メガバンクで既に講演を頂き討論を実施した 質問項目の可能な限りの共通化を協議中 人材交流を開始
(参考) エコチル調査 (環境省)	準備中

これらのゲノムコホートと連携してワーキンググループ(「ゲノムコホート連携推進WG」)を設立し、密接な意見交換を行ってゲノムコホート基本計画を磨き、さらに、質問項目、包括同意書、ゲノム解析方法などでの連携体制を構築して行くことが重要である

【参考：国内の主なコホート】

※五十音順

名称	開始年度	地域	対象者	規模 (目標数)	同意取得 の範囲	生体試料	ゲノム解析の 有無	備考
大規模分子疫学コ ホート研究 (国立がん研究セン ター)	2011 (3年間)	茨城県筑西地 域	40-70歳の住 民	1万人以上	生活習慣病 等の包括同 意	血清、血漿、尿、 DNA	今後、GWAS、エ クソーム、全ゲノ ム等の解析を検 討	既存コホート(JPHC- NEXT)との連携を想 定
ながはま0次予防コ ホート事業 (京都大学)	2007	滋賀県長浜市	30-74歳の概 ね健康な人	1万人 (1万人)	京大医学研 究科又は京 大関わって いる研究に使用 (バイオバン ク構築にも言 及)	血清、DNA、尿	・4000検体を GWASで解析済 ・100検体前後の エクソームシー ケンスを実施済	統合化推進プログラ ム(JST・NBDC)
日本多施設共同 コホート研究 (J-MICC研究)	2005	全国	35歳～69歳ま での男女 それぞれ5万 人程度	8万人 (10万人)	DNAは、説明 文書記載の 生活習慣病 に関わる遺伝 子解析研究	血清、血漿、 バフィーコートま たはDNA	SNP等の遺伝子 多型と検診デー タ、生活習慣等と の関連	調査票データ、血清・ 血漿は、研究での使 用の同意。検診デー タ、生活習慣等と 追跡データの同意に 目的限定の記載なし。
バイオバンク・ジャパ ン	2003	全国	47疾患 ※疾患コホート	20万人 (30万症 例)	・疾患の原因 や薬効に関 する研究 ・民間企業も 含めたバイオ バンクに言及	血清、DNA	7、8万検体で GWAS解析等を 実施	2007年以降、新規症 例を収集していない

名称	開始年度	地域	対象者	規模 (目標数)	同意取得 の範囲	生体試料	ゲノム解析の 有無	備考
久山町コホート (九州大学)	1961	福岡県久山町	全町民のうち 40歳以上	3,000人以上	生活習慣病 研究のみ	血清、血漿、尿、 DNA	ほぼ全ての試料 でGWAS、SNP解 析を実施	脳梗塞、潰瘍性大腸 炎等について、疾患 群(久山町外部)との 対比研究を実施
山形分子疫学コ ホート研究 (山形大学)	2010	山形県内	「特定健診」の 受診者 (40-74歳)	8590人 (1.5万人)	疾患の特定 はしない	血清、尿	6,000検体を GWASで解析済	グローバルCOEプロ グラム
(参考)エコチル調査 (環境省)	2011 リクルート:3年 追跡期間:13年	全国	妊婦とその子 供	不明 (10万人)	・国内外研究 に幅広く利用 ・研究機関終 了後、研究用 バンクとして 広く国内外の 研究に使用	血清・血漿・尿・ (妊娠前期・妊娠 中後期・出産後) 臍帯血・毛髪・母 乳	将来の遺伝子解 析のために血液 を保存する事を 記載	(実際に研究計画が 定まった場合には、倫 理審査委員会で承認 を受けるなど、必要な 手順を踏んでから実 施)